

(6) にがり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 ベと病 <i>Pseudoperonospora cubensis</i>	1.発病苗は本圃に持ち込まない。 2.ポリマルチをする。 3.草勢の維持管理に努める。 4.日射、通風を良好にするため、適度の摘葉を行う。 5.多湿条件で発病しやすいので、湿度管理に注意する。	発病前から	11 11	アミスター20フロアブル ストロビーフロアブル
2 うどんこ病 <i>Oidium</i> sp.	1.窒素過多は本病の発病を助長する。 2.昼夜の温度差が大きくなると、発病が多くなる。 3.肥切れを避ける。 (薬剤使用の特記事項) 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。	発病前から	— M5 M10 U6・3 7・M5	サンヨール ダコニール1000 モレスタン水和剤 (混)パンチョTF顆粒水和剤 (混)ベジセイバー
3 炭疽病 <i>Colletotrichum orbiculare</i>	1.苗床の高温、多湿を避ける。 2.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 3.ポリマルチや敷わらを行う。 4.窒素過多は発病を助長する。 5.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉や被害果は除去し、処分する。	発病前から	1 11 M5	トップジンM水和剤 アミスター20フロアブル ダコニール1000
4 つる枯病 <i>Didymella bryoniae</i>	1.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 2.ポリマルチや敷わらを行う。 3.排水を良好にする。 4.窒素過多は発病を助長する。 5.不必要な側枝は早めに摘除し、通風、採光を図る。 6.連作を避ける。 7.被害茎葉は除去し、処分する。	発病前から	M5	ダコニール1000
5 斑点病 <i>Cercospora citrullina</i>	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好にする。 3.肥料切れをさせない。 4.摘除した病葉や収穫後の植物体残さは放置せず、早めに処分する。	発病前から	1 M5	トップジンM水和剤 ダコニール1000
6 アブラムシ類	1.圃場とその周辺の除草に努める。 2.飛び込み軽減のため、育苗床は防虫ネット(1mm目合以下)で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 (薬剤使用の特記事項) 1.アディオオン乳剤はフキノメイガ、カメムシ類にも登録がある。 2.トレボン乳剤はカメムシ類、ウリノメイガにも登録がある。	定植時	4A 4A	アドマイヤー1粒剤 ダントツ粒剤
		発生初期	1B 3A 3A 4A 4A 9B	マラソン乳剤 アディオオン乳剤 トレボン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 コルト顆粒水和剤
7 ヨトウムシ類	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット(4mm目合以下)で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 (薬剤使用の特記事項) 1.アディオオン乳剤はフキノメイガ、カメムシ類にも登録がある。 2.トレボン乳剤はカメムシ類、ウリノメイガにも登録がある。 3.トアロー水和剤CT、バシレックス水和剤、エスマルクDF、チューンアップ顆粒水和剤は、ヨトウムシに登録がある。 4.ゼンターリ顆粒水和剤、フローバックDFは、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウに登録がある。 5.サブリーナフロアブルは、ヨトウムシ、ハスモンヨトウに登録がある。	若齢幼虫期	3A 3A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	アディオオン乳剤 トレボン乳剤 トアロー水和剤CT バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チューンアップ顆粒水和剤 サブリーナフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

にがうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
8 オオタバコガ	1. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若 齢 幼 虫 期	6 11A 11A 11A 11A 11A 11A	ア フ ァ ー ム 乳 剤 ト ア ロ ー フ ロ ア ブ ル C T ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 エ ス マ ル ク D F フ ロ ー バ ッ ク D F チ ュ ーン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル
9 コナジラミ類	1. 苗による持ち込みに注意する。 2. 周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 3. 被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し半月程度放置する。	定 植 時	4A 4A	ア ル バ リ ン 粒 剤 ス タ ー ク ル 粒 剤
		発 生 初 期	3A 4A 4A 21A	ト レ ボ ン 乳 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 サ ン マ イ ト フ ロ ア ブ ル
10 ミナミキロアザミウマ	1. 苗で本圃に持ちこまない。 2. シルバーマルチをする。 3. 飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 4. 侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 5. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天時であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 6. 周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7. 被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 （薬剤使用の特記事項） 1. アドマイヤー水和剤・顆粒水和剤は施設栽培での登録である。	発 生 初 期	4A 4A 4A 13 15 21A	ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ド マ イ ヤ ー 水 和 剤 ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル カ ス ケ ー ド 乳 剤 ハ チ ハ チ 乳 剤
11 マメハモグリバエ	1. 外部から苗を購入する際には虫の有無に注意する。 2. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. マルチ栽培は土中の蛹化防止に有効である。 4. 被害植物や雑草は除去後土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5. 圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 6. 侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊すことにより、密度を下げるができる。 7. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天時であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。	発 生 初 期	15	カ ス ケ ー ド 乳 剤
12 ハダニ類	1. 圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2. 作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。 3. 収穫終了後、夏期ハウスを密封して、1～2週間太陽熱で残さを処理する。	発 生 初 期	10A 21A	ニ ッ ソ ラ ン 水 和 剤 ダ ニ ト ロ ン フ ロ ア ブ ル
13 ネコブセンチュウ	1. 水田に転換可能な畑では、2～3年に1回の割合で水田に戻す。 2. 苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 3. 施設では、夏期約1か月間の太陽熱利用による消毒を行う。 （薬剤使用の特記事項） 1. D-Dの土壌消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	作 付 の 10 ～ 15 日 前 まで （ 土 壌 消 毒 ）	8A	D - - D
		播 種 前 また は 定 植 前	1B	ネ マ ト リ ン エ ー ス 粒 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する